

科目	運動器障害理学療法学	担当	太田 進	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

運動器障害理学療法学では、理学療法で対象とする代表的な骨関節疾患の病態、治療(保存的治療、観血的治療、理学療法)、検査測定方法について学習する。講義の中では、解剖学や運動学で学習した内容と各疾患の病態との関連づけも行っていく。また、具体的に理学療法の方法も一部紹介し、各骨関節疾患の病態理解とその評価を基本とした理学療法の考え方も学習する。受講者は、この講義を通じて、運動器障害理学療法学に関わる代表的疾患の理解と障害の評価、および治療のアウトラインを修得することができる。

【履修注意】

教科書を基本として、要旨を板書する。計画・内容については、変更の場合があるので注意すること。

【評価方法】

出席状況、授業態度、定期試験などから総合的に評価する。(欠席が1/3を超える学生は受験不可)

【試験について】

中間試験は実施しない。期末試験は論述(筆記試験)とする。

再試験対象者の条件：本試験で60点未満を再試験の対象とする。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要である。

講義の対象となる疾患について、整形外科の教科書を十分に予習・復習して参加すること。

【教科書】

書籍名：運動器障害理学療法学Ⅰ(15レクチャーシリーズ) 著者：石川 朗 出版社：中山書店
 書籍名：運動器障害理学療法学Ⅱ(15レクチャーシリーズ) 著者：石川 朗 出版社：中山書店

【参考書】

必要により資料を配布する。

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	運動器障害理学療法総論	運動器障害、理学療法総論、理学療法評価、組織再生・修復
2	骨折、脱臼	骨折の分類、脱臼、上肢骨折、理学療法、評価と治療
3	骨折	下肢骨折、大腿骨近位部骨折、圧迫骨折、理学療法、評価と治療
4	膝関節疾患	変形性膝関節症、理学療法、評価と治療
5	股関節疾患	変形性股関節症、大腿骨頭壊死理学療法、評価と治療
6	膝関節疾患	靭帯損傷、理学療法、評価と治療
7	膝関節疾患	半月板損傷、理学療法、評価と治療
8	肩関節疾患(外部講師)	投球障害、スポーツ傷害、腱板断裂、理学療法、評価と治療
9	肘・手の関節疾患	肘・手関節周辺疾患、理学療法、評価と治療
10	足関節疾患	足関節周辺疾患、理学療法、評価と治療
11	脊椎疾患	頸部痛・腰痛、理学療法、評価と治療
12	その他の骨関節疾患	関節リウマチ、骨形成不全症等、理学療法、評価と治療
13	小児疾患(外部講師)	先天性疾患、理学療法、評価と治療
14	末梢神経損傷	末梢神経損傷、理学療法、評価と治療
15	総まとめ1	復習、確認、総まとめ
16	総まとめ2	復習、確認、総まとめ